

美濃加茂市未来のまちづくり委員会（第6回）議事録

1. 日時：平成31年4月19日（金） 午後7時00分～9時00分

2. 場所：美濃加茂市生涯学習センター 203号室

3. 出席者（順不同）：

（1）委員：

海道会長、渡邊副会長、生田委員、須藤委員、原田委員、山田委員、鈴木委員
宮口委員、長谷川委員（9名中9名出席）

（2）業務委託先：

玉野総合コンサルタント株式会社4名

（3）市：

経営企画部長、企画課長、その他企画課2名
建設水道部長、建設水道部対策監

4. 報告事項

事務局から、資料に基づき報告がされた。報告内容は、中間答申、前回委員会の議事録、今後の委員会スケジュールについてである。

5. 審議事項

資料3-1（美濃加茂市新庁舎整備基本計画（案））について審議を行った。委員から出された主な意見は以下のとおり。

（1）資料3-1 規模について（P.15～）

事務局から、資料に基づき新庁舎整備基本計画（案）における規模の算出について説明があった。委員から出された主な意見は以下のとおり。

・P.17の将来の人口推移において、現状の人数は外国籍の方の人数を含んでいるのか。外国人の人口推移に対する考えは。

→（事務局回答）2019年3月時点の57,051人のうち、日本人は約52,000人、外国人は約5,000人で、入管法の改正等の社会情勢の影響で外国人の人口は増加すると想定される。

・駐輪台数の算定は、いつの既往研究を用いているのか。

→（事務局回答）研究は岡田正光氏のもので、数値は平成23年の交通実態調査の値を用いている。

・P.19の国土交通省の算定の中で、医務室、売店、食堂及び喫茶店、理髪店の項目があるが、新庁舎内にも検討しているのか。

→（事務局回答）全体の面積を他事例と比較するために項目を減算していない。新庁舎に機能として必ず導入されるというわけではない。

（会長から）

・各機能の必要最低限の面積を積み上げると狭い状態になるので、そのような付属部分は、待合などにすることで空間の余裕が出てよいのでは。

・P. 20の8,800㎡に370人の職員を配置する想定か。人口減少が想定される中で、面積を現状の職員数を基に現状維持とするのは妥当か。

→P. 17に記載の現庁舎にいる職員数を想定している。人口ビジョンでは2060年に現在とほぼ同程度の人口を想定している。

(会長から)

・人口が将来減少するという理由から現段階で面積を減らすというのは、現状規模でも業務をしなければならない中で無理がある。5年、10年後に使われていないスペースが出れば、有効的に使えるようその都度検討すべき。

・庁舎の規模は、現庁舎と比較してどうなのか。

→本館が約3,500㎡、西館が約1,700㎡、分庁舎が約2,000㎡、合計約7,200㎡である。現庁舎は、職員1人あたりの面積が少なく、完全に不足しているという状況である。

・駐車台数を現状の507台から490台に減らしているが、駅前で確保するのか。現実的に可能なのか。

→職員の駐車場を確保するのは難しい。来庁者用を優先的に確保し、民間の土地や駐車場を含めて最大限確保できるよう検討していく。

・駅前に新庁舎を整備するという利点を活用して、職員の公共交通機関の利用を促がしてはどうか。

→現状、庁舎とは別敷地に職員用の駐車場を利用しているため、駅前に新庁舎を整備した場合もその駐車場から通勤するという状況は変わらないが、職員の通勤手段を変えることも検討したい。

・2050年の公共施設全体の延床面積のビジョンはどうなっているのか。

→H29年策定の公共施設等総合管理計画では、現状を大きく上回らないことを原則としている。

・保健センターは移設するのか。駐車場の利用についても気になる点である。

→今回の新庁舎とともに移設する予定はないので、新庁舎の駐車場への負担はない。

・機能の検討に合わせて、規模の検討を重ねて更新して欲しい。

(2) 資料3-1 機能について (P. 1～)

事務局から、資料に基づき新庁舎整備基本計画(案)における機能について説明があった。委員から出された主な意見は以下のとおり。

・基本計画に機能を載せる際の最終形態を知りたい。本文中に「検討します」とあるが、どういう意図か。機能を検討するのは面積の確定のためなのか、機能、配置を明言するためなのか。

→職員による分科会で検討を重ねており、最終的には必要な部分については明記する。

・様々なカウンタータイプがあるが、車いすやベビーカーを利用する方のための窓口のあり方についても言及してほしい。

・事業手法をPFIとする場合、民間のノウハウを活用し提案してもらうとなると、機能を決めて

しまうのは良くないのでは。

→基本計画の中で、基本機能を庁舎内のどこかに入れるというような書き方で示していきたい。明らかに確保すべき機能を抑えた上で、余裕のある面積の中で民間からの提案を受けたい。

(会長から)

・民間には基本機能以上のアイデアをもらおうとよいのでは。

・P. 7の書庫・収納スペースは今後どのように検討していくのか。具体的な方針は出ているのか。
→今後現状の書類の量を把握した上で、書類の保存年数等も鑑み、過大な量のスペースにならないようにしていく。

・コンパクトで使いやすい執務スペースの検討が具体的に示されているが、会議室等の形態（スケルトン等）は、職員の分科会で得られた意見なのか、他の自治体が導入しているため出てきた意見なのか、どのような経緯で出てきているか。

→職員から打合せコーナーの必要性は意見として出ている。全ての会議室を同質にするのではなく、交流を誘発する開かれたスペースとセキュリティを強化して閉め切られたスペースなどを差別化して配置していきたい。執務スペースは、その都度組織改編等に合わせてレイアウトの変更を容易にできる形態を目指している。

・どこまで具体的に検討して基本計画に示していくのかを知りたい。

→仮にPFI事業を選択するとすれば、民間のノウハウをいかに取り入れていくかが重要になるが、従来の事業手法となれば、仕様書の中にある程度必要な仕様を示していかなければならない。現段階では両方の可能性があるため、見通しを持って細かく検討を進め、一方で最適な事業手法を選定していくことで、どのような記載が適しているか明確になると考える。

(会長から)

・個々のデザインや配置を検討する前にコンセプト・方針が今書かれていることで充分なのか再度検討し、それを踏まえた上で議論すべき。

・スケジュールとして、事業手法を検討する時期はいつか。

→配置イメージを踏まえた上で事業手法を検討したい。次回、機能と一緒に配置イメージを議論し、次々回の委員会では配置イメージと関連付けて事業手法を議題としたい。

(会長から)

・活用できる土地が狭いことが想定されるので、手法や配置についてしっかり検討していく必要がある。

6. 今後の予定

次回開催日時の確認がされた。

委員会の開催日は令和元年5月24日 午後7時00分～9時00分。場所は生涯学習センター203号室。

以上